

製品名: NARG1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14411**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	100kDa

抗原情報

遺伝子名	NAA15 NAA15; GA19; NARG1; NATH; TBDN100; N-alpha-acetyltransferase 15; NatA auxiliary subunit; Gastric cancer antigen Ga19; N-terminal acetyltransferase; NMDA receptor-regulated protein 1; Protein tubedown-1; Tbdn100
別名	
遺伝子 ID	80155.0
SwissProt ID	Q9BXJ9
免疫原	抗血清はヒト NARG1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 221-270

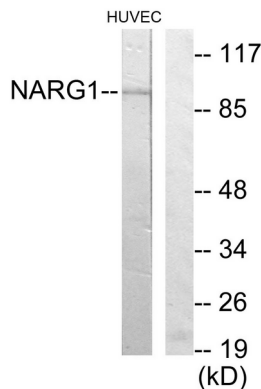
背景

この遺伝子は機能が不明なタンパク質をコードしています。しかし、酵母や他の種のタンパク質との類似性から、このタンパク質は N-アセチルトランスフェラーゼである可能性が示唆されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],機能: ARD1A-NARG1 複合体は、血管、造血、神経細胞の成長と発達に重要な役割を果たす可能性のある α (N 末端) アセチルトランスフェラーゼ活性を示します。成体眼内皮細胞における網膜血管新生の制御に必要です。G22P1 および XRCC5 (Ku80) との複合体は、オステオカルシンプロモーターからの転写をアップレギュレーションします。 ,PTM: アポトーシス時にカスパーゼによって切断され、安定した 35 kDa の断片となります。 ,配列に関する注意: コンタミネーション配列。ポリ A 配列の可能性あります。 ,類似性: 8 つの TPR リピートを含みます。 ,細胞内局在: 主に細胞質内、場合によっては核内。遊離細胞質ポリソームおよび細胞骨格結合ポリソームに存在するが、膜結合ポリソームには存在しない。 ,サブユニット: ARD1A、G22P1、NAT13、XRCC5 と相互作用する。 ,組織特異性: 精巣および眼内皮細胞で高発現する。また、脳 (脳梁)、心臓、結腸、骨髄にも発現しており、甲状腺、肝臓、膵臓、乳腺、唾液腺、肺、卵巣、泌尿生殖器系、上部消化管を含むほとんどの成人組織でも低発現する。胃癌、甲状腺乳頭癌、バーキットリンパ腫細胞株 (Daudi) で過剰発現する。増殖性糖尿病網膜症患者の眼における異常増殖血管では特異的に抑制される。 ,

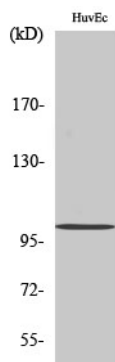
研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達; クロマチン修飾酵素; アセチル化; HAT

画像データ



NARG1 抗体を用いた HUVEC 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



NARG1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析